

### 1. 種の解説

体長 8 mm 内外。黒色、上翅・爪・腹部先端は赤褐色、密に直立毛を装う。頭部は粗く点刻され、中央のみ平滑。前胸背の側縁は広く上反し暗赤褐色、全体に点刻があり、上反部の点刻は大きく、背部のものは非常に小さい。上翅は条刻され明らかな点刻を含み、間室は粗に点刻され翅端は切断状、爪は基部が広がり櫛歯状となる。

成虫は灯火に飛来する。

### 2. 分布

国外では中国、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では駿東郡小山町において建物内の出入口付近で採集された記録があるのみで、他に東部の落葉広葉樹林における採集例がある（未発表）。

### 3. 生息環境

河川敷の氾濫原に生息することが報告されているが、県内の確認地は河川からやや離れた建物内や山地の森林であり詳細は不明である。

### 4. 生息状況

県内の確認例がほとんどなく、詳細な生息状況は不明であるが、個体数は非常に少ないものと考えられる。

### 5. 減少の主要因と脅威

河川改修や護岸工事などの河川環境の人工化(13)が本種にとって最大の脅威になるといわれる。

### 6. 保護対策

特になし。

### 7. 特記事項

河川敷に生息するカワラケアリを寄主とする好蟻性種であることが判明しているが、県内では調査がほとんど行われていない。県内の確認地は河川環境ではないことから、そこではトビイロケアリを寄主としている可能性もある。

### 8. 主な文献

田形和弘・多比良嘉晃 (1988) 建屋内で捕獲された甲虫類 (I) . 静岡の甲虫, 6: 21-23

豊田浩二 (2000) アリスアトキリゴミムシとカワラケアリの関連について. 甲虫ニュース, (127/128): 11-13

森本 桂 監修 (2007) 新訂原色昆虫大図鑑 第II巻 (甲虫篇) . 北隆館, 東京, 526 pp.

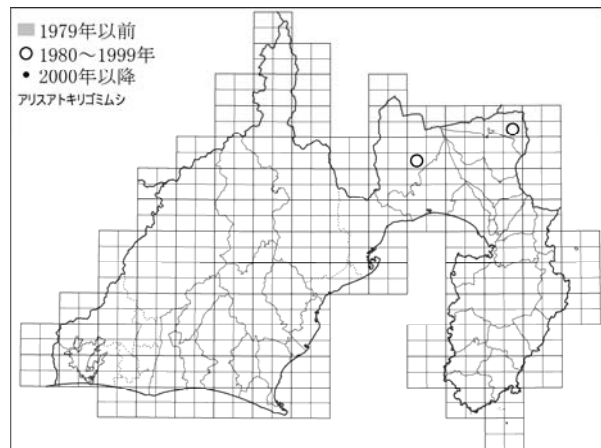
### 9. 標本

富士宮市産、小山町産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

富士宮市山宮産 1983年7月26日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# ムツボシツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus politus* (Sharp, 1873)

コツブゲンゴロウ科 Noteridae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ]

## 1. 種の解説

体長 2.4~2.6 mm。体は逆卵形で背面は強い光沢がある。頭部、前胸背は黄~オレンジ色で点刻を欠く。上翅も黄~オレンジ色だが、個体変異や地域変異が著しく、斑紋はほとんど無紋の個体から6紋型の個体まで連続的に変化する。

成虫は一年中見られ、夏~晩秋季に多い。

## 2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。産地はきわめて局地的。県内では磐田市桶ヶ谷沼、浜松市南区松島町、浜松市佐鳴湖周辺(浜松市中区富塚新川、西区篠原町)で記録があり、磐田市鶴ヶ池、浜松市南区白羽町、浜松市西区篠原町・坪井町・村楡町、浜松市北区引佐町・細江町で採集例がある(未発表)。

## 3. 生息環境

平野部や丘陵地にある水生植物の多い池沼の浅瀬や水面付近に生息する。

## 4. 生息状況

産地は局所的に限られるが、西部では各地に分布しており、生息地における個体数は多い。

## 5. 減少の主要因と脅威

開発による生息地の消失(12、15-1)のほか、植生遷移の進行(54)や富栄養化に伴う生息環境の悪化、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)などにより生息地は減少傾向にある。

## 6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

## 7. 特記事項

本種は放棄された養鰻池やハス田でもよく見られるが、近年、このような場所はすぐに埋め立てられて、ソーラー発電施設が建設されている。

## 8. 主な文献

阿部光典(1988) ゲンゴロウ類の分布に関するメモ. 甲虫ニュース, (83/84): 5-6.

加藤 徹・多比良嘉晃・塩澤靖弘(2008) 第5章 1項 6 佐鳴湖周辺の昆虫相. 静岡県戦略課題研究「快適空間『佐鳴湖』の創造」研究報告書, pp. 470-523. 静岡県産業部振興局研究調整室, 静岡.

北野 忠・石田和男(2000) 遠州地方で採集された水生甲虫類. 遠州の自然, (23): 9-14

北野 忠・記野直人・長谷川洋・北山 昭(2000) 静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録-本州初記録のニセコケシゲンゴロウを中心として-. 甲虫ニュース, (129): 7-9

細田昭博(2011) ゲンゴロウ類の記録. 遠州の自然, (34): 1-4

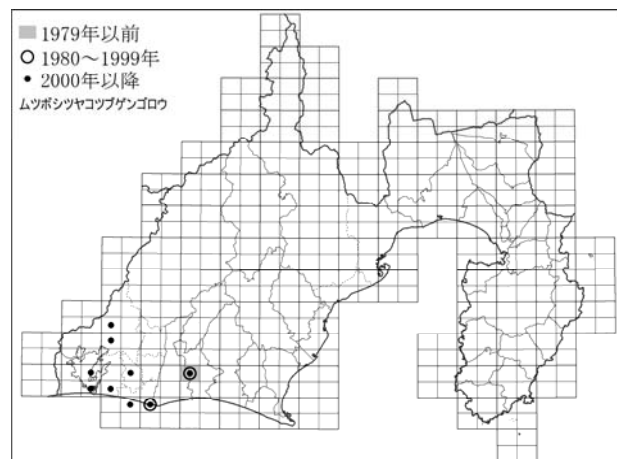
森 正人・北山 昭(2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 231 pp.

## 9. 標本

磐田市産：神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵



©2019 H.Ishikawa  
浜松市南区産 2014年7月23日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

### 1. 種の解説

体長 3.8～5.0 mm。体は丸形。背面は黄褐～黄赤褐色で、光沢はオスでは強いがメスでは光沢をほとんど欠く個体が見られる。光沢のあるメスは、四国、九州以南に多く見られる。頭部はやや密に点刻されるが、後頭ではややまばらになる。複眼間には小さな2暗色紋をもつ個体が多い。前胸背はやや密に点刻され、両側部をのぞき後縁は暗色となり、ふつうこの紋は中央部で上部が切れ込む。

成虫は一年中見られ、県内では特に秋季に多く確認されている。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、極東ロシアに、国内では本州、四国、九州、南西諸島(トカラ、沖永良部島)に分布する。台湾、中国には別亜種が分布する。県内では西部の磐田市桶ヶ谷沼、浜松市南区松島町・米津町、浜松市西区篠原町で記録があるほか、東部の駿東郡小山町、御殿場市山之尻・仁杉・柴怒田、西部の浜松市西区村櫛町での採集例がある(未発表)。

### 3. 生息環境

水生植物の豊富な池沼、湿地、ため池、水田、休耕田、放棄水田に生息する。

### 4. 生息状況

水生植物の豊富な止水域に生息するが、県内の生息地は東部と西部から知られるだけである。近年、浜松市南区松島町の生息地では個体数が著しく減少している。2002年には御殿場市の放棄水田で多数の個体が確認された。

### 5. 減少の主要因と脅威

県内の既知生息地では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)などが脅威となる。また、放棄水田などに生息している個体群は、開発による工事(23)や乾燥による陸地化(54)などによって生息地が消失するおそれ大きい。

### 6. 保護対策

特になし。

### 7. 特記事項

かつての普通種だが、都市部周辺では減少傾向が著しいという。

### 8. 主な文献

細田昭博(2011) ゲンゴロウ類の記録. 遠州の自然, (34): 1-4

北野 忠・記野直人・長谷川 洋・北山 昭(2000) 静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録-本州初記録のニセコケシゲンゴロウを中心として-. 甲虫ニュース, (129): 7-9

森 正人・北山 昭(2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ(第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

油井雅樹(1997) 静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録. 駿河の昆虫, (179): 5021-5023

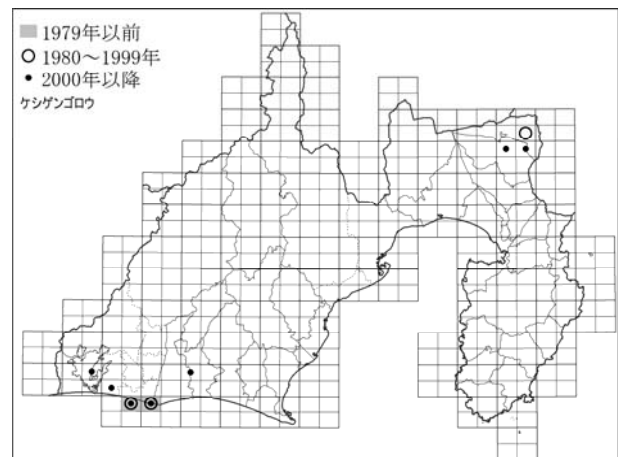
### 9. 標本

駿東郡小山町産ほか：個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

駿東郡小山町産 2013年11月17日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# キベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* (Sharp, 1884)

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) ]

## 1. 種の解説

体長 7~8 mm。体型は長楕円形でやや厚い。黒~黒褐色、弱い金属光沢を具える。頭楯、前頭、頭頂の2紋、胸背両側の三角紋は黄褐色。上翅の黄白斑は、基部黄帯と翅端に達しない側縁の縦条紋からなるが、種々の程度に変異する。腹面、触角、脚は赤褐色。背面は不規則な網目状印刻を具える。前胸背前・後縁に明瞭な点刻列がある。上翅には明瞭でかなり大きな3点刻列を具える。

成虫は春から秋まで見られ、成虫で越冬する。灯火にもよく飛来する。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆半島、富士宮市大鹿窪、静岡市清水区蒲原(富士川)、浜松市東区笠井で記録があり、富士宮市精進川、富士宮市沼久保、浜松市浜北区竜南などで採集例がある(未発表)。

## 3. 生息環境

河川の流水やよどみに生息し、岸辺の植物周辺や石下などで見られる。

## 4. 生息状況

県内での記録は少なく、詳細な生息状況は不明であるが、富士川ではまとまって採集された例がある(未発表)。

## 5. 減少の主要因と脅威

主な生息地が平地を流れる中流域にあるため、護岸などの河川改修工事による環境改変(13)の影響を受けやすい。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

採集データを伴う記録があるのは、富士川本流、富士川支流芝川、天竜川本流の2水系3河川にすぎない。

## 8. 主な文献

安立綱光(1951)伊豆半島の動物 其の二 無脊椎動物. 吉田竜男 編, 伊豆半島(伊豆国立公園候補地学術報告), pp. 137-156. 静岡県・静岡県観光協会, 静岡.

北野 忠(2000)静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川自然保全研究会報告書, (15): 17-24

細田昭博(2011)ゲンゴロウ類の記録. 遠州の自然, (34): 1-4

丸山宗利(1998)静岡県のゲンゴロウ2種の記録. 月刊むし, (329): 39-40

森 正人・北山 昭(2002)改訂版図説日本のゲンゴロウ(第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

森本 桂 監修(2007)新訂原色昆虫大図鑑 第II巻(甲虫篇). 北隆館, 東京, 526 pp.

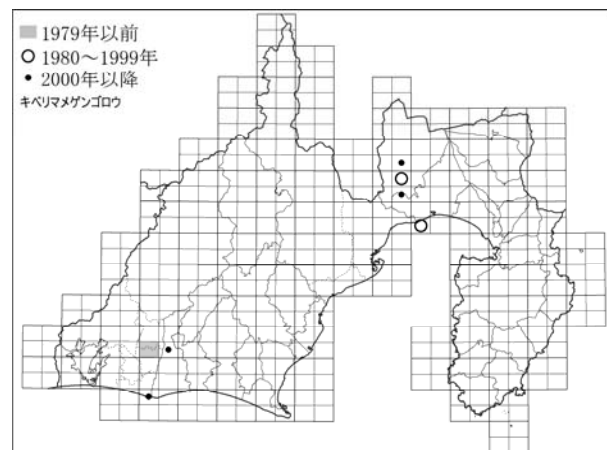
## 9. 標本

磐田市竜洋町産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

磐田市竜洋町産 2013年10月25日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringi* Clark, 1864

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) ]

## 1. 種の解説

体長 12.5~14 mm。体は卵形で背面はよく膨隆し光沢がある。頭部は淡黄褐色で、後半は黒く全体に微細な点刻を散布する。前胸背も淡黄褐色、前・後縁の中央が黒色で細い正中線でわずかにつながる。小楯板、上翅は黒色で、上翅の縦条、基部直後内方の円紋は黄色。腹面は前胸が黄褐色、上翅側片前方も黄褐色であるが、それより後方は茶褐色で、その他はやや明るい赤褐色で細かく点刻される。

成虫は5~10月頃に見られ、メスは5~8月に水草の茎や葉の表面に産卵する。成虫は上陸して越冬する。成虫は夏季に灯火に集まり、山林内のライトトラップにも飛来することがある。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島（種子島、屋久島、トカラ中之島、宝島）に分布する。県内では富士宮市麓、伊豆半島、天城山、静岡市清水区由比入山、伊豆の国市浮橋・宗光寺で記録があり、伊豆市冷川、下田市箕作、賀茂郡河津町・東伊豆町・南伊豆町などで採集例がある（未発表）。

## 3. 生息環境

平地から丘陵の水草の豊富な浅い池沼、湿地、水田、放棄水田に生息し、時に未舗装道路の轍の溜まり水などにも見られる。

## 4. 生息状況

県内での記録は少なく詳細な生息状況は不明であるが、伊豆半島では個体数が比較的多いようである。

## 5. 減少の主要因と脅威

開発 (12、15-1) や圃場整備 (15-2) による水田や周囲の水路などの消失、湿地や休耕田の植生遷移 (54) の進行に伴う陸地化、アメリカザリガニの侵入 (52-3) などが脅威である。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

不安定な水域にも見られることから、高い移動能力を有すると考えられる。

## 8. 主な文献

由比雅樹 (1997) 静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録. 駿河の昆虫, (179): 5021-5023

北野 忠 (2000) 静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川自然保全研究会報告書, (15): 17-24

田村正人 (1962) 富士農場およびその付近の昆虫目録. 東京農業大学短期大学農業科・東京農業大学日本植物学研究所, 31 pp.

平井克男 (1993) 1990年天城山における甲虫類調査記録. 駿河の昆虫, (163): 4621-4653

森 正人・北山 昭 (2007) 改訂版図説日本のゲンゴロウ (第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

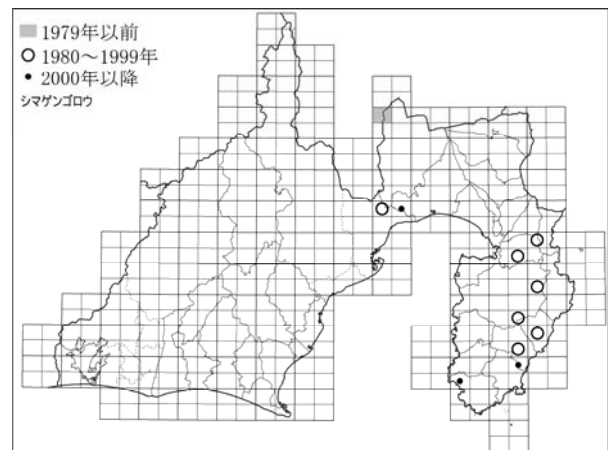
## 9. 標本

下田市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 H.Ishikawa

下田市産 2003年8月25日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# マルヒラタガムシ *Enochrus subsignatus* (Harold, 1877)

ガムシ科 Hydrophilidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) ]

## 1. 種の解説

体長5 mm内外。黄赤褐色、頭部後方はやや暗色、前胸背板の4小点紋、上翅肩部内側の1小紋、会合部中央後などは暗色、第3間室中央前と第5間室中央に不分明な暗色縦条を装う。背面は密に小点刻を装い、上翅会合部条溝は中央より始まり、後方に条溝の痕跡がある。体下は黒褐色。中胸腹板は板状に隆起し、前角に歯を具える。

成虫は5～12月に見られ、水草を食べ、幼虫は肉食性であるという。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。県内では磐田市桶ヶ谷沼と浜松市佐鳴湖周辺（浜松市中区富塚町、西区大平台・篠原町）から記録されており、浜松市南区白羽町、浜松市西区馬郡町・舞阪町・村楡町、湖西市新所などで採集例がある（未発表）。

## 3. 生息環境

水生植物の豊富な止水域に生息する。県内の生息地はハス田放棄地や放棄養鰻池などで、ヨシの茂ったあまり深くない止水域やヨシはまばらで水深の深い止水域などである。

## 4. 生息状況

県内での確認例は少なく詳細な生息状況は不明であるが、生息地での個体数は多い。磐田市桶ヶ谷沼では近年の確認例はないようである。

## 5. 減少の主要因と脅威

湖沼や河川敷の開発(12、13)、湿地の開発(15-1)、ため池も含めた圃場整備(15-2)、水質汚濁(31)などにより、生息環境が減少している。

## 6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

## 7. 特記事項

成虫は水草を食べ、幼虫は肉食性。

## 8. 主な文献

加藤 徹・多比良嘉晃・塩澤靖弘(2008)第5章1項6 佐鳴湖周辺の昆虫相. 静岡県産業部振興局研究調整室 編, 静岡県戦略課題研究「快適空間『佐鳴湖』の創造」研究報告書, pp. 470-523. 同室, 静岡.

杉山恵一 編(1990)桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. (財)日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

森本 桂 監修(2007)新訂原色昆虫大図鑑 第II巻(甲虫篇). 北隆館, 東京, 526 pp.

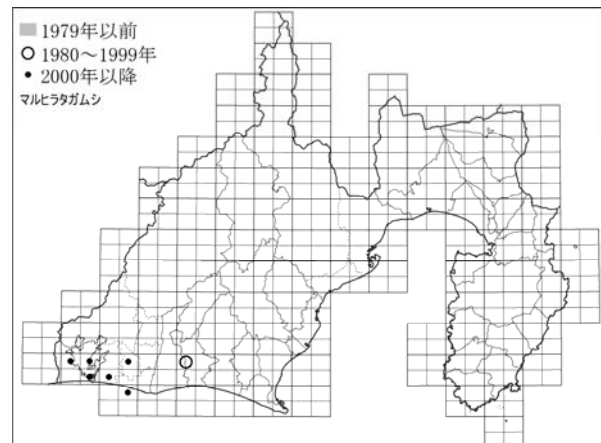
## 9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

浜松市西区舞阪町産 2015年3月15日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

### 1. 種の解説

体長 3.8~4.3 mm。黄赤褐色、頭部は両側紋をのぞき黒く、体下は暗赤褐色、口枝、脛跗節は黄褐色。頭胸背はやや密に粗く点刻され、胸側では後方で粗くなる。上翅はより弱く点刻され、各 10 条の強い点刻列を含む条溝を具え、小楯板に沿い短い条溝がある。体下は細毛を密布し、中胸腹板は前方に弱い瘤起がある。

成虫は 2~11 月に見られ、成虫で越冬するものと考えられる。メスは腹部に卵を付着させて保護する。繁殖期は長い。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。県内では富士宮市猪之頭小田貫湿原から記録があるのみであるが、富士宮市羽鮒、掛川市倉真、袋井市豊沢、浜松市天竜区青谷、浜松市浜北区四大地、浜松市北区引佐町、湖西市大知波で採集例がある（未発表）。

### 3. 生息環境

丘陵地や山間部のため池や水田、湿地に生息する。

### 4. 生息状況

県内での確認例は少なく詳細な生息状況は不明であるが、いくつかの生息地では個体数は少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

開発によるため池や湿地の埋め立て（12、15-1）、ため池を含めた水田地帯の圃場整備（15-2）などにより、生息環境が減少している。

### 6. 保護対策

特になし。

### 7. 特記事項

本種は従来、*Helochares striatus* Sharp, 1873 の学名が当てられていた。

### 8. 主な文献

Hebauer, F. (1995) Neues zu den Acidocerina Hansen (Helocharae d'Orchymont) der indomalaiischen Region (Coleoptera, Hydrophilidae). *Acta Coleopterologica*, 11(3): 3-14

森本 桂 監修 (2007) 新訂原色昆虫大図鑑 第Ⅱ巻 (甲虫篇). 北隆館, 東京, 526 pp.

多比良嘉晃・松本雅道 (1993) 小田貫湿原で採集した甲虫類. 静岡の甲虫, 10(2): 25-27

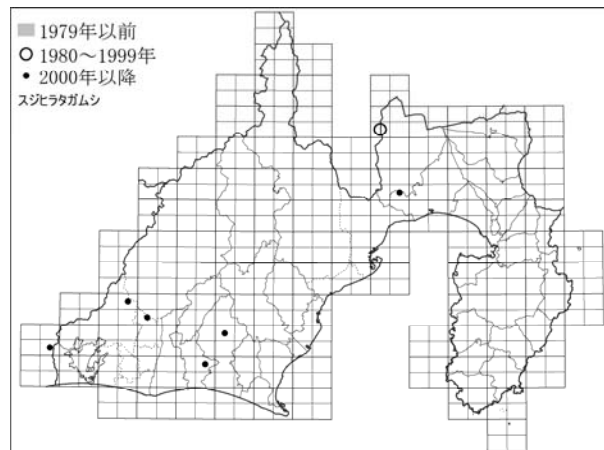
### 9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 H.Ishikawa

浜松市天竜区産 2014年10月15日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# アカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola rusticola* (Burmeister, 1842)

コガネムシ科 Scarabaeidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足 (DD) ]

## 1. 種の解説

体長16~21 mm内外。背面は赤褐色で黒色の小紋が点在し、腹面は光沢のある黒色で、中胸突起だけ赤褐色。頭楯の両側は円くの前方でやや湾入する。前胸腹板の中央には褐色の毛をもった突起があり、中胸腹板突起は前方で広がり、前縁は丸まる。

成虫は4~10月に見られ、クヌギやコナラの樹液に集まる。幼虫は主に猛禽類などの鳥類の巢内で、雛の食べ残しや腐食物などを食べて発育し巢内で蛹化する。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部、ベトナムに、国内では北海道から屋久島までの、佐渡島、淡路島、隠岐諸島、五島列島などの島嶼を含めて広範囲に分布する。県内では袋井市法多山の記録があるのみであるが、牧之原市坂口と伊豆市湯ヶ島の採集例がある(未発表)。また、浜松市浜北区静岡県立森林公園でも採集されているとのことである。

## 3. 生息環境

クヌギやコナラなどの樹木が生えた森林に生息する。また、幼虫が発生場所となる猛禽類が営巣可能な大木の存在も重要である。

## 4. 生息状況

県内での確認例は少なく詳細な生息状況は不明である。

## 5. 減少の主要因と脅威

かつては、日本各地の里山の雑木林にふつうに見られたようであるが、里山環境の衰退に伴い、稀な種となった。猛禽類の生息できる豊かな里山環境の保全(11、23、53)が、本種の保護に重要である。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

幼虫は、肉食性のクマタカ、ハチクマ、サシバ、オオタカ、ミサゴ、アカハラダカ、カワウ、コウノトリなどの巢内で育つことが報告されているが、雑食性のハシボソガラスの巢の利用例もある。

## 8. 主な文献

出口可能(1989)小笠山のアカマダラコガネ. 静岡の甲虫, 7(1/2): 19

石川 均・新井 真(2004)アカマダラハナムグリの一生態について. 甲虫ニュース, (148): 13

榎原 寛・阿部 學・新里達也・早川浩之・飯嶋一浩(2004)ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, (148): 21-23

永幡嘉之・越山洋三・梅津和夫・後藤三千代(2013)ハシボソガラスの巣で発育したアカマダラハナムグリ-DNA解析による土繭内の蛹殻および幼虫死体の種同定-. 昆虫(ニューシリーズ), 16(2): 104-112

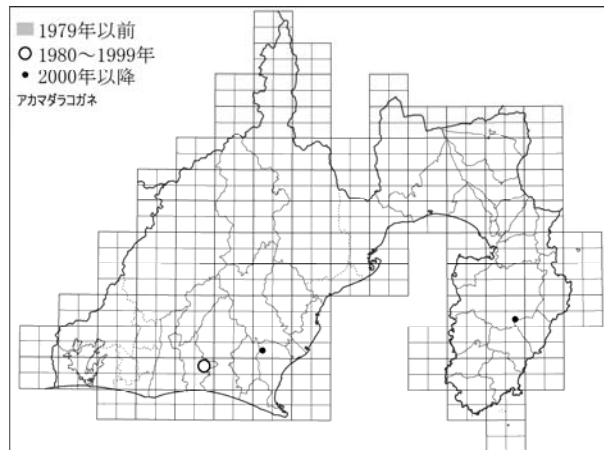
## 9. 標本

牧之原市産：個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 F.Sekikawa

牧之原市産 2003年7月31日 関川文俊採集



(多比良嘉晃・石川 均)



# ヒゲナガヒラタドロムシ *Nipponeubria yoshitomii* Lee & M. Sato, 19

ヒラタドロムシ科 Psephenidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-Ⅲ 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) ]

## 1. 種の解説

体長 2.3~2.8 mm。体は短卵形で腹背にやや扁平、触角、頭部、前胸部は黒色で上翅は茶褐色、腹面は暗褐色で肢は暗黄褐色。上翅は粗大点刻と小点刻を不規則に装い粗造。オスの触角は長く体長よりやや短い程度で強い鋸歯状を呈し、メスの触角は体長の半分に達せず微鋸歯状。

成虫は5~7月頃に出現し、幼虫の発生源である沢沿いの植物上などに見られる。幼虫は水辺から少し離れた場所の湿った落ち葉の裏にいることが多いという。

## 2. 分布

日本固有種で、本州（愛知県、三重県、島根県）に分布する。群馬県からも記録されたようであるが、文献未入手。県内では静岡市葵区梅ヶ島での採集例がある（未発表）。

## 3. 生息環境

幼虫の生息環境はブナ林内の細流脇、染み出し水の周辺などである。

## 4. 生息状況

安倍川流域では複数ヶ所で確認されていて、環境に特に大きな変化は見られないことから安定して生息していると考えられる。

## 5. 減少の主要因と脅威

生息環境が特殊であり、岸壁の護岸工事（13）が行われると、生息環境が急速に消失する可能性が指摘される。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

生態などは不明であるが幼虫は細流の脇や染み出し水周辺の落ち葉を食していると考えられる。

## 8. 主な文献

林 成多 (2009) 日本産ヒラタドロムシ科概説. ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 35-85

Lee, C.-F. & M. Satô (1996) *Nipponeubria yoshitomii* Lee and Satô, a new species in a new genus of the Eubriinae from Japan, with notes on the immature stages and description of the larvae of *Ectopria opaca* (Kiesenwetter) (Coleoptera: Psephenidae). *The Coleopterists Bulletin*, 50: 122-134 (SCI)

吉富博之 (1998) ヒゲナガヒラタドロムシ (新称) の採集記録. 甲虫ニュース, (122): 10

吉富博之 (2000) 矢作川水域から見つかった新種 ②ヒゲナガヒラタドロムシ *Nipponeubria yoshitomii* Lee and M. Satô, 1996. Rio ~豊田市矢作川研究所月報~, (26): 4

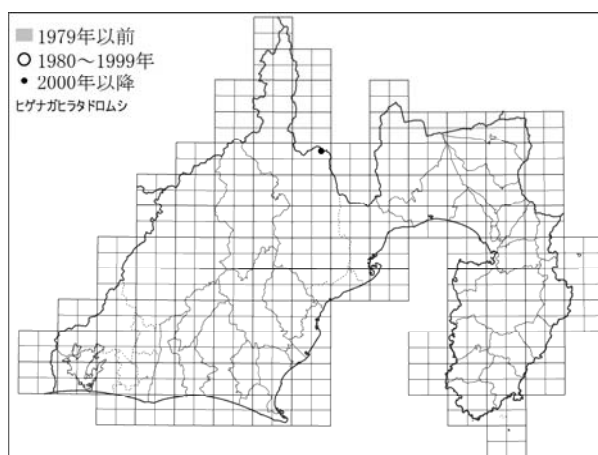
## 9. 標本

静岡市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 T.Kato

静岡市葵区産 2015年5月30日 加藤 徹採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# ヘイケボタル *Luciola lateralis* Motschulsky, 1860

ホタル科 Lampyridae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード13

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

体長 7~10 mm。黒色で正中部の幅広い黒条をのぞく前胸背板と腹部末端 3 節は淡朱紅色、体は著しく長い長円形で腹背にやや扁平。

成虫は 6~9 月頃まで見られ、7・8 月頃に多く、夜間、ゲンジボタル *Luciola (Luciola) cruciata* Motschulsky, 1854 より弱い光を放ちながら飛翔する。幼虫は主に止水域に生息し、モノアラガイ類などの淡水産貝類を餌としている。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国北東部、シベリア東部、サハリンに、国内では北海道、千島、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆半島、島田市川根町笹間渡笹間川、浜松市天竜区二俣町二俣、浜松市北区都田町都田川、湖西市嵩山の記録があり、伊豆市湯ヶ島温泉、駿東郡小山町中島、裾野市茶畑、静岡市駿河区小鹿、牧之原市白井、御前崎市新野、菊川市半済、掛川市粟本、浜松市北区引佐町四方浄などで採集例がある（未発表）。

## 3. 生息環境

幼虫は水田や流れの緩やかな小川・用水路などに生息し、場所によってはゲンジボタルと混生している。

## 4. 生息状況

普通種であったためか、データを伴った過去の記録は少なく、詳細な生息状況は不明である。記録されないまま消滅した産地も数多くあるものと思われる。

## 5. 減少の主要因と脅威

開発 (23) や圃場整備 (15-2) による水田の埋め立てや水路の護岸化、農薬・肥料などや生活廃水の流入などによる水質汚染 (32) などによって少なくとも都市近郊の生息地はかなり失われた。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

ゲンジボタルは各地で保護・繁殖の対象となっているが、本種を対象とした保護活動はほとんど行われていない。

## 8. 主な文献

- 松本雅道・栗原 隆・多比良嘉晃 (1999) 静岡県浜松市のホタル科甲虫について. 月刊むし, (343): 20-21  
坪井俊久 (1977) 天竜市二俣町の甲虫類 (II). 駿河の昆虫, (98): 2871-2878  
渡辺一雄 (1980) 静岡県湖西市嵩山周辺の昆虫相. 遠州の自然, (3): 53-68  
山下 健 (2012) 島田市笹間川でヘイケボタルを確認. 駿河の昆虫, (238): 6572

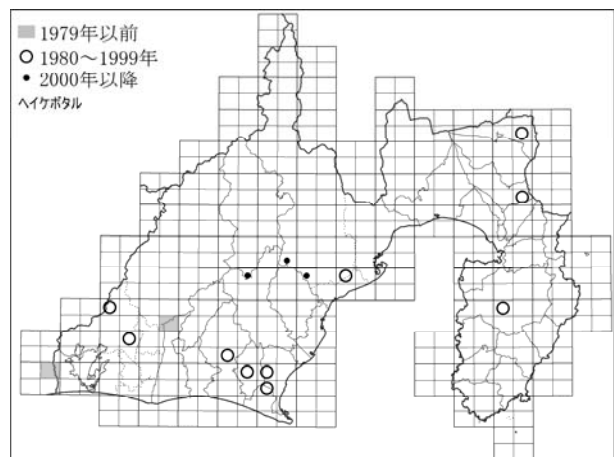
## 9. 標本

御前崎市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa  
御前崎市新野産 1991年6月11日 石川 均採集



# アサカミキリ *Thyestilla gebleri* (Faldermann, 1835)

カミキリムシ科 Cerambycidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類(VU) ]

/\*-

## 1. 種の解説

体長 10~15 mm。黒色で背面は灰黒色の微毛で覆われ、頭部複眼後方、前胸背板の正中部及び両側、翅鞘会合部及び両側にそれぞれ密な灰白色微毛からなる細縦条を装い、下面は全面灰白色微毛で覆われる。触角第3節以下は基半に灰白色毛を装い、白黒のダンダラ状に見える。背面の微毛が灰白色の個体もある。体はおおむね短円筒形で、ずんぐりした感じを受ける。

成虫は5~8月頃出現、アザミ類の植物体上において、茎頂や葉の葉脈部分を食害する。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国北東部、沿海州に、国内では本州、四国、九州に分布する。国内の分布は局地的である。県内では賀茂郡東伊豆町、富士宮市北山、天竜市相津で記録があり、御殿場市中畑、富士宮市朝霧高原の採集例がある。

## 3. 生息環境

山地草原に生息する。かつては栽培されていたアサ(大麻)に多数集まっていたとされるが、アサの栽培が禁止されて以来、個体数が激減したといわれる。近年はアザミ類に食草転換したと考えられる個体群が各地で発見されている。

## 4. 生息状況

県内の記録が少なく、詳細な生息状況は不明であるが、賀茂郡東伊豆町と富士宮市朝霧高原ではアザミ類生葉上に少なからず見られる。

## 5. 減少の主要因と脅威

開発など(23)による生息環境の破壊・消滅や、高い採集圧(41)による個体数の減少が危惧される。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

県内産の標本がインターネットオークション上で売買されている。

## 8. 主な文献

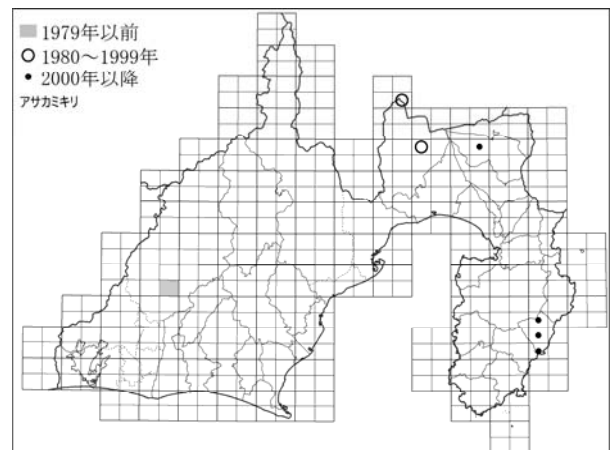
- 市川恭治・奥田宜生・草間慶一(1988) 静岡県のカミキリムシ. 静岡の甲虫, 6(2): 3-81
- 石川 均(1982) アサカミキリを富士山麓で採集. 静岡の甲虫, 1(2): 32
- 篠島正彰(2009) 細野高原(東伊豆町)でアサカミキリを観察. 駿河の昆虫, (227): 6292
- 篠島正彰(2009) 細野高原(東伊豆町)ほかでアサカミキリを観察. 駿河の昆虫, (228): 6325
- 土屋忠男(2014) 伊豆地方における甲虫目の記録. 駿河の昆虫, (246): 6755-6761

## 9. 標本

御殿場市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa  
御殿場市中畑産 2016年8月8日 石川 均採集



(多比良嘉晃)

# ゴマギケブカハムシ *Xanthogaleruca nigromarginata* (Jacoby, 1885)

(=クロヘリウスチャハムシ)

ハムシ科 Chrysomelidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし:環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

## 1. 種の解説

体長 4.2 mm 内外。背面は灰黄褐色。前胸背板は 3 黒紋を装い、上翅は暗褐色で会合部と側縁部は黒色、体腹面も黒色で肢は暗褐色を呈する。成虫は 3~8 月に出現、幼虫期は 5~6 月、食草(食樹)はスイカズラ科(レンブクソウ科)のゴマギ。

## 2. 分布

国外では中国南部(香港、海南島)に分布するとされ、国内では本州(青森県、東京都、神奈川県、静岡県)に分布する。県内では裾野市須山での採集例がある(未発表)。

## 3. 生息環境

本来の生息環境は低地~山地のゴマギが生育する良好な落葉広葉樹林と考えられる。

## 4. 生息状況

県内では 1ヶ所だけで確認されていて、周辺地域の調査が十分に行われていないため、詳細な生息状況は不明である。県内では荒地を走る林道脇のゴマギの低木からえられている。

## 5. 減少の主要因と脅威

ゴマギを寄主植物とするため、発生木及び周辺に生育するゴマギの伐採(11, 61)が直接的な脅威となる。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

県内では成虫は 5~8 月に確認されている。東京都では絶滅し、神奈川県では 2本のゴマギで生息が確認されているだけ(平野, 2006)という。

## 8. 主な文献

林 匡夫・森本 桂・木元新作 編(1984)原色日本甲虫図鑑(□). 保育社, 大阪, 438 pp.

平野幸彦(2006)甲虫類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, pp. 343-367. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

木元新作・滝沢春雄(1994)日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会, 秦野, 539 pp.

滝沢春雄(2011)日本産ハムシ科生態覚書(5). 神奈川虫報, (173): 35-51

Takizawa, H. (1982) Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). *The entomological review of Japan*, 37: 55-60

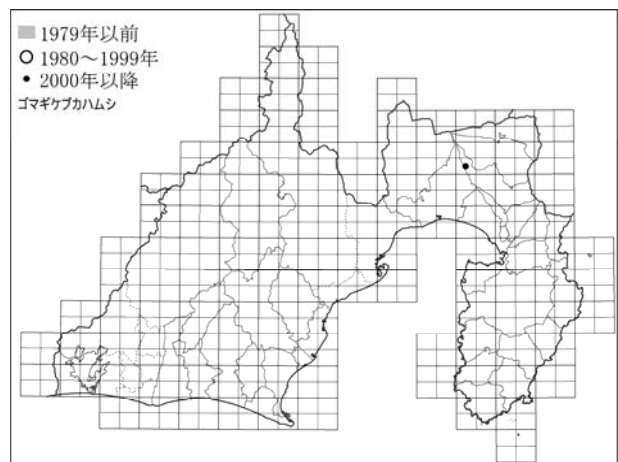
## 9. 標本

裾野市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

裾野市産 2018年8月26日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

# フジミドリシジミ *Sibatanozephyrus fujisanus fujisanus* (Matsumura, 1910)

シジミチョウ科 Lycaenidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

開張およそ 35 mm。オスの表面は灰色を帯びた銀緑色で、メスは一様に褐色。幼虫の食餌植物はブナ、イヌブナに限られる。卵で越冬。成虫は年1回、6月下旬に発生し、メスは8月まで生き残る。ほかのミドリシジミ類の占有行動とは異なり、ブナなどの大木の上をあまり止まることがなくゆっくりと飛翔する。湿った道路面において吸水するほか、ヒメジョオンなどの花で吸蜜することもある。

## 2. 分布

日本固有種で、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。県内では個体数は少ないが、伊豆半島、富士山、大井川上流域、天竜川中流域の山地に広く分布している。

## 3. 生息環境

標高およそ 1,000~1,700 m のイヌブナやブナを主体とする極相に近い落葉広葉樹林に生息する。

## 4. 生息状況

県内のブナやイヌブナの大木を主体とする落葉広葉樹林に広く生息している。天城山塊には比較的個体数は多いが、富士山ではあまり個体数は多くない。大井川上流、天竜川中流域では個体数はさほど多くないものの、1,000 m 以上の山地に広く生息している。

## 5. 減少の主要因と脅威

現在は際立った減少傾向はみられないが、開発などによるブナやイヌブナを主体とした落葉広葉樹林の伐採(11)が脅威となる。

## 6. 保護対策

樹齢の高いブナやイヌブナを主体とした落葉広葉樹林の存続が不可欠である。

## 7. 特記事項

本種の基準産地は富士山であり本県にゆかりが深い。ブナ林を代表する種であることから森林の保護保全にも関連する。

## 8. 主な文献

池谷 正・鈴木英文・諏訪哲夫(2014) 大井川上流7月中旬の蝶. 駿河の昆虫, (245): 6737-6738

太田雅敏(1993) 伊豆半島のフジミドリシジミについて. 駿河の昆虫, (161): 4598-4599

高橋真弓(1967) 静岡県とその周辺のみドリシジミ類についての覚え書. 駿河の昆虫, (57): 1561-1608

高橋真弓(2003) 7月上旬静岡市(大河内) 仏谷山付近の蝶類. 駿河の昆虫, (203): 5677

山下 健(2001) 寸又川上流フジミドリシジミなどの記録. 駿河の昆虫, (194): 5441

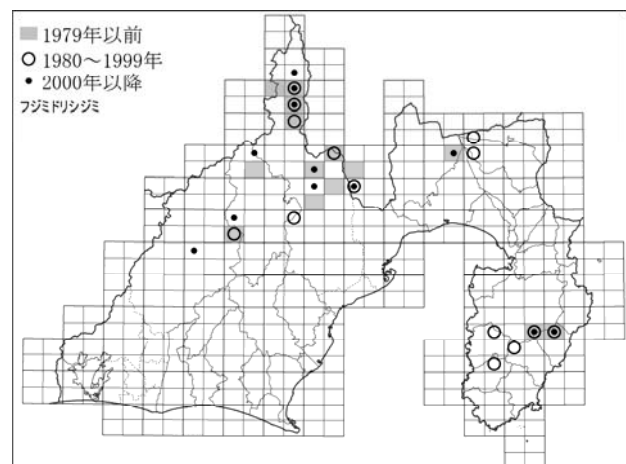
## 9. 標本

各産地(多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(諏訪哲夫)



伊豆市産♂裏面 2013年7月3日 諏訪哲夫採集



# ギンボシヒョウモン *Speyeria agalaja fortuna* (Janson, 1877)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

開張およそ 60~70 mm、メスはオスよりかなり大きい。表面は黄褐色の地に黒斑が豹の紋のように散らばる。裏面後翅には多数の銀色の斑紋がある。幼虫の食餌植物はスミレ類。幼虫で越冬。成虫は年1回発生し、6月下旬~8月まで見られる。木本ではウツギ、草本ではクガイソウ、マルバダケブキなど各種の花で吸蜜する。

## 2. 分布

国外ではサハリンからヨーロッパまでユーラシア大陸に広く、国内では北海道、東北地方、中部山岳地域に分布する。県内では富士山麓、南アルプスとその前衛の山地及び北遠地方から記録がある。

## 3. 生息環境

標高およそ 1,000~2,500 m の花の多い草原、林間や道路法面などの草地、あるいはウツギなどを交えた灌木の疎林などが生息地となる。

## 4. 生息状況

1980年代の後半まで富士山麓、南アルプスとその周辺の山岳地帯においてかなりふつうの種として確認されていたが、1990年代以降、各地で個体数が著しく減少した。現在では調査を綿密に行うことにより、やや安定して生息していることが判明した。

## 5. 減少の主要因と脅威

成虫の活動の場所となる草花の多い草原が減少したことが考えられる。草原が減少した要因は、植生遷移(54)の進行のほかシカによる草花の食害(54)が大きいとみられる。

また、近年の気候温暖化の直接的、または間接的な影響(71)を受けている可能性がある。

## 6. 保護対策

シカの食害を防止するための対策が望まれる。

## 7. 特記事項

特になし。

## 8. 主な文献

諏訪哲夫・鈴木英文・高橋真弓(2012) 2011年、富士山地域の蝶。駿河の昆虫, (237): 6534-6539

鈴木英文・諏訪哲夫(2017) 大井川源流部の昆虫類の記録(2014-2016)(第1報チョウ亜目)。駿河の昆虫, (257): 7027-7039

高橋真弓(1987) 静岡県および山梨県南部におけるヒョウモンチョウ類の分布と生息地II。駿河の昆虫, (137): 3959-3987

高橋真弓(2014) 2013年、富士山静岡県側山麓における蝶類の採集記録。駿河の昆虫, (247): 6790-6791

谷川久男(2014) 富士山御殿場口のチョウ。駿河の昆虫, (246): 6771

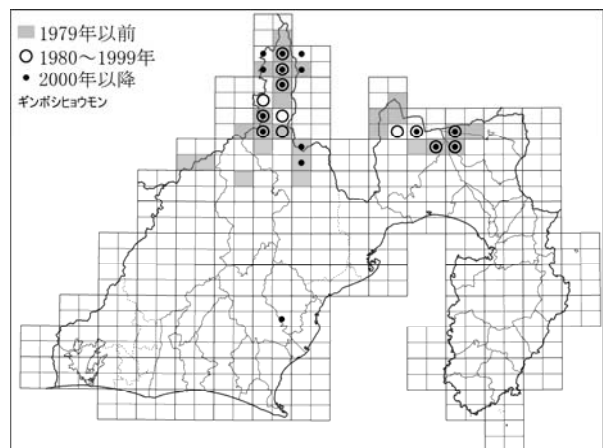
## 9. 標本

各産地(多数): ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(諏訪哲夫)



静岡市葵区産♂裏面 2016年7月18日 諏訪哲夫採集



# オオムラサキ *Sasakia charonda charonda* (Hewitson, 1863)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) ]

## 1. 種の解説

開張 90~100 mm。メスはオスよりかなり大きくなる。オスは前後翅の基半部が紫色に輝く。メスはこれがなく褐色の地に白斑と一部淡黄斑を散らす。幼虫の食餌植物はエノキ、エゾエノキ。4 齢か 5 齢幼虫で越冬。成虫は年 1 回 6 月下旬から発生し 8 月まで見られる。樹液や腐った果実、獣糞などで吸汁する。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ベトナム、台湾に、国内では北海道から九州まで分布する。北海道では局地的。県内では伊豆半島、富士山の大部分及び南アルプス高地帯をのぞく山地に分布している。

## 3. 生息環境

幼虫の食樹となるエノキやエゾエノキのほか、成虫の吸蜜源となるクヌギ、コナラなどが多い低山地から標高およそ 1,000 m の山地に見られる。

## 4. 生息状況

1960 年代までは中部及び小山町などでやや安定して成虫の記録があるが、その後 1992 年前後と 2013 年に一時記録が増えたものの現在まで成虫の記録は大変少ない。しかし冬季における幼虫の調査では比較的安定して生息しているといえる。

## 5. 減少の主要因と脅威

各種の開発 (23、24) や、植生遷移 (54) により食樹となるエノキの消滅や他の樹木による被圧などで生息環境は悪化している。また雑木林の減少 (23) により成虫の餌となる樹液が不足していることも要因の一つとみられる。

## 6. 保護対策

特にこの種の保護のための対策はとられていない。生息地となる里山環境の再生と保全が大切である。

## 7. 特記事項

近年、富士山西麓の本来分布していなかった地域から、人為的に野外に放たれた個体に由来するとみられる記録が報告されている。

## 8. 主な文献

池谷 正・鈴木英文・諏訪哲夫 (2014) 大井川上流 7 月中旬の蝶. 駿河の昆虫, (245): 6737-6738

小堀 健 (2013) 富士市岩本山公園のオオムラサキ. 駿河の昆虫, (243): 6685-6686

清 邦彦 (2004) 富士宮市と芝川町のオオムラサキとゴマダラチョウ. 駿河の昆虫, (206): 5752-5753

清 邦彦 (2016) 富士山におけるウスバシロチョウとオオムラサキの分布拡大. 環境 Eco 選書⑫-チョウの分布拡大, pp. 63-70. 北隆館, 東京.

高橋真弓 (1975) 静岡県および山梨県南部におけるオオムラサキとゴマダラチョウの分布. 駿河の昆虫, (92): 2679-2701

高橋真弓・斉藤伸行 (2014) 主として静岡県中部および山梨県南部におけるオオムラサキとゴマダラチョウの越冬幼虫調査記録 (2003-2015 年). 駿河の昆虫, (247): 6779-6785

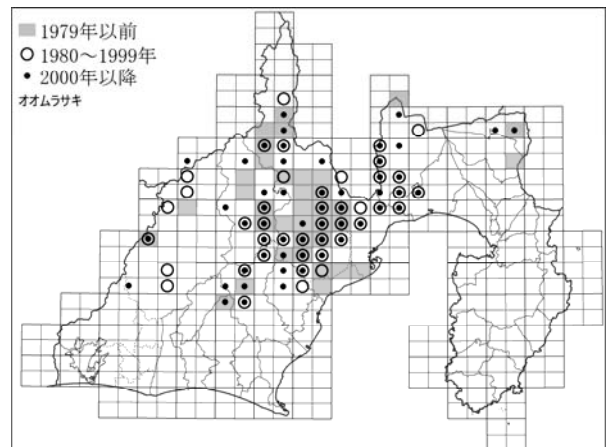
## 9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(鈴木英文・諏訪哲夫)



©2019 M.Ikeya  
静岡市産♀表面 2015年6月22日 池谷 正採集



# サトキマダラヒカゲ *Neope goshkevitschii* (Ménétrières, 1857)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード9

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

開張およそ 60～65 mm。表面は黒褐色の地に明るい褐色の斑紋が全面を覆う。オスメスとも斑紋に大きな違いはない。幼虫の食餌植物はネザサやモウソウチクなど。蛹で越冬。成虫は5～6月と7月下旬～8月に2回発生する。クヌギなどの樹液や動物の糞などに集まり吸汁する。

## 2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布している。南千島の国後島にも生息する。県内では伊豆半島をはじめ標高ほぼ 0～1,000 m の県下全域に分布している。

## 3. 生息環境

主として標高の低い平地や里山のメダケやモウソウチクなどの竹林、ネザサの群落に生息し、時に標高の高いスズタケなどの群落でも採集されることがある。成虫は樹液を吸汁するのでコナラ、クヌギ、ヤナギなどの林が重要となる。

## 4. 生息状況

以前は最もふつうに見かける種であったが、ここ10年ほどは個体数が激減している。その傾向は静岡市とその周辺で顕著である。西部、東部では激減とまではいなくても個体数が減少している。

## 5. 減少の主要因と脅威

以前は多くの個体が見られた低山地で激減した要因は明らかではないが、竹林が密生し過ぎたこと(54)や成虫の餌となる樹液などを出す雑木林が減少(11、23)していることも要因の一つと考えられる。

## 6. 保護対策

里山が放置されることなく何らかの整備が進めば回復の期待はある。

## 7. 特記事項

減少傾向は他県ではあまり報告されていなく、本県の減少は特異である。

## 8. 主な文献

佐藤卓也(1994) 静岡市谷津山の蝶について. 駿河の昆虫, (166): 4703-4720

杉本 武・諏訪哲夫(2013) 静岡大学キャンパス内の昆虫調査Ⅱ. 駿河の昆虫, (244): 6705-6721

諏訪哲夫(2015) 遠州地方における蝶類の記録(2015年). 駿河の昆虫, (252): 6912-6914

高橋真弓(1969) 静岡県とその周辺におけるキマダラヒカゲの“平地型”と“山地型”の分布. 駿河の昆虫, (66): 1884-1903

土屋忠男(2010) 静岡県東部蝶の記録(Ⅳ). 駿河の昆虫, (232): 6401-6406

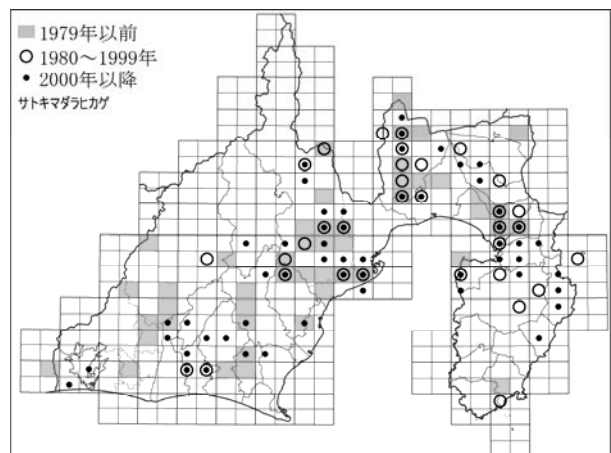
## 9. 標本

各産地(多数): ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(諏訪哲夫)



掛川市産♂裏面 2015年5月17日 諏訪哲夫採集





# ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer, 1911

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード9

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

開張およそ 40~45 mm。翅の表裏とも薄い灰褐色で、表前翅には大小 2 個の眼状紋がある。裏面は前翅と後翅を貫く白黄色の線があり、その外側に複数の眼状紋がある。幼虫の食餌植物は各種のイネ科植物。幼虫で越冬。成虫は 5 月中旬から現れ 10 月まで年 3~4 回発生する。成虫は花で吸蜜することはほとんどなく、果汁や樹液などを吸汁する。

## 2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国中南部、インドシナ半島に、国内では北海道西南部、本州、四国、九州に広く分布する。県内では標高は 0~1,000 m の各地に広く分布している。

## 3. 生息環境

水田の周りの草地や堤防、森林の周辺や明るい林内などに生息し、時に住宅の庭でも見ることがある。

## 4. 生息状況

海岸から山地にかけていたるところで見かけ、個体数も多く最もふつうの種であった。しかし、2000 年代になって静岡市内では減少傾向となり、最近では目撃することがかなり稀になっている。西部ではまだ生息しているところは多いが、個体数は 10 年ほど前に比べて明らかに減少している。減少傾向は伊豆、東部ともに同様である。

## 5. 減少の主要因と脅威

これまで最もふつうの種であったにもかかわらず、減少している原因は不明である (99)。

## 6. 保護対策

里山の整備が望まれる。

## 7. 特記事項

最普通種であった本種が、最近の減少が著しいことは驚きであり、今後の推移を観察していく必要がある。

## 8. 主な文献

- 永井 彰 (2000) 清水市西里・黒川地区における 1999 年の蝶類出現調査. 駿河の昆虫, (191): 5355-5360
- 佐藤卓也 (1994) 静岡市谷津山の蝶について. 駿河の昆虫, (166): 4703-4720
- 諏訪哲夫 (2015) 遠州地方における蝶類の記録 (2015 年). 駿河の昆虫, (252): 6912-6914
- 谷川久男 (1999) 裾野市深良用水古川流域のチョウ. 駿河の昆虫, (187): 5243-5246
- 土屋忠男 (2010) 静岡県東部蝶の記録 (IV). 駿河の昆虫, (232): 6401-6406

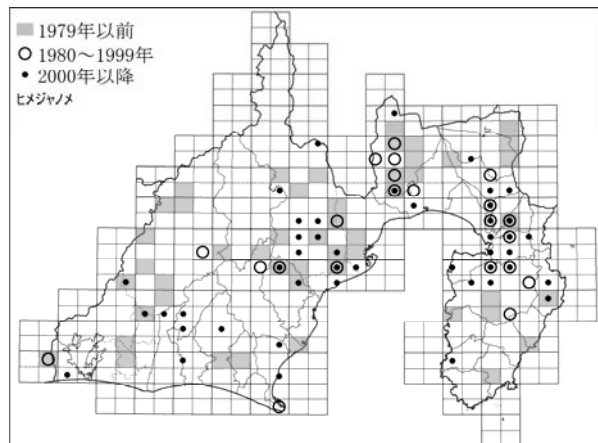
## 9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵 (未登録)



©2019 T.Suwa

磐田市産♀裏面 2015年9月22日 諏訪哲夫採集



(諏訪哲夫)

# オキナワリチラシ *Eterusia aedeia sugitanii* Matsumura, 1927

マダラガ科 Zygaenidae

静岡県カテゴリー 部会注目種(N-III)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

開張 60~70 mm。オスの触角は櫛歯状。体は黒色で、青色、緑色の鱗片が多く、前翅の地色は美しい緑色の金属様光沢がある。幼虫はヒサカキを食す。本亜種成虫は年1化、8月下旬~9月に出現する。オスは昼間活動せず、灯火に飛来する。

## 2. 分布

本亜種 *sugitanii* は、国外では韓国可居島に、国内では伊豆半島を東限とし本州、四国、九州、隠岐、対馬、筑前沖ノ島に分布する(大和田, 2013)。県内では伊豆と中部に分布する。そのほか、屋久島・トカラ列島・奄美大島・徳之島・沖縄島・久米島・八重山諸島産それぞれが亜種とされ、合計8亜種が日本に分布する。種としては、台湾、中国、インドシナ、ヒマラヤからインドを経てスリランカまで広く分布している。

## 3. 生息環境

低木層に食樹ヒサカキの混じる樹林。

## 4. 生息状況

伊豆市湯ヶ島で1961年に発見された後、1987年に再度確認された。その後の記録としては手元に1995年8月の標本があるのみ。2000~2001年に調査を実施したが確認されなかった。その後、2014年までの調査で安倍川上流部(静岡市葵区入島)まで数ヶ所で生息地が確認されている。

## 5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)や市街地に近い場所での発生地では常夜灯の影響(71)がある。

## 6. 保護対策

特になし。

## 7. 特記事項

静岡県が分布の東限となっている。また、伊豆市湯ヶ島は孤立した個体群(近い既知産地は愛知県鳳来寺)とされていたが、2001年9月に安倍川流域の静岡市葵区藤代などで確認された。外見は伊豆市湯ヶ島産の個体と変わらない。

## 8. 主な文献

福井昭夫(1963) オキナワリチラシ伊豆半島に産す. 蛾類通信, (32): 224

岸田泰則・矢崎克己・吉本浩(1988) オキナワリチラシの伊豆半島における再発見. 蛾類通信, (145): 317

Owada M. (2001) Further notes on geographical forms of the Chalcosiinae moth *Eterusia aedeia* (Lepidoptera, Zygaenidae). *Mem. natn. Sci. Mus., Tokyo*, 37: 293-310

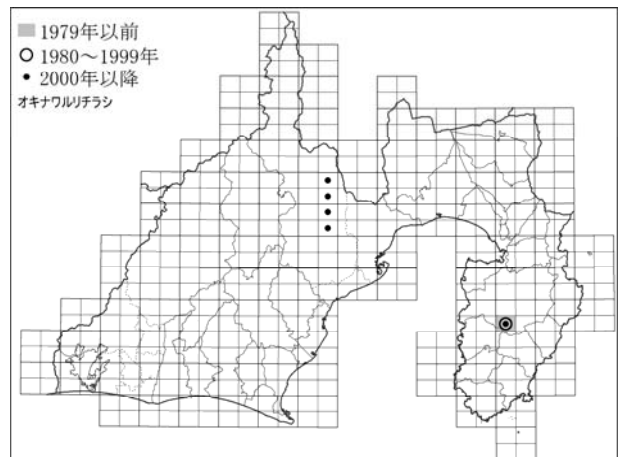
大和田守(2013) マダラガ科ホタルガ亜科. 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 編, 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ, pp. 329-331. 学研教育出版, 東京.

## 9. 標本

静岡市葵区産: 国立科学博物館所蔵



©2019 E.Eda  
静岡市産♂表面 2015年9月5日 枝恵太郎



(枝恵太郎)